
アミロイドーシスの腎病理学的検討

小澤政豊、大谷 浩、小松田 敦^{*}、涌井秀樹^{*}、澤田賢一^{*}

秋田組合総合病院、秋田大学第3内科^{*}

Pathological study on renal amyloidosis

<はじめに>

アミロイドーシスは全身臓器の細胞外領域に難溶性のアミロイド線維が沈着し、機能障害を引き起こす一連の疾患群であり、免疫細胞性アミロイドーシス（AL型）と反応性アミロイドーシス（AA型）に大別される。本邦の腎アミロイドーシスの多数例の検討は、新潟大と東北大/福岡大からの2報のみで、前者では長期予後の検討はなく¹、後者ではAL型、AA型ともに長期予後が不良で有意差はない²。このため、MTXや生物学的製剤（Bio）等による抗炎症治療の進歩によりAA型の予後改善が期待され、長期予後についての再検討が必要と考えられ、本研究を行った。

<方法>

1980-2010年の間に秋田大学と関連施設で腎生検を受け、アミロイドーシスと診断された74例に対し、retrospective studyを行った。診断は腎生検組織のCongo-red染色又はDylon染色により確定し、AL型とAA型の鑑別は免疫染色により行った。

<結果>

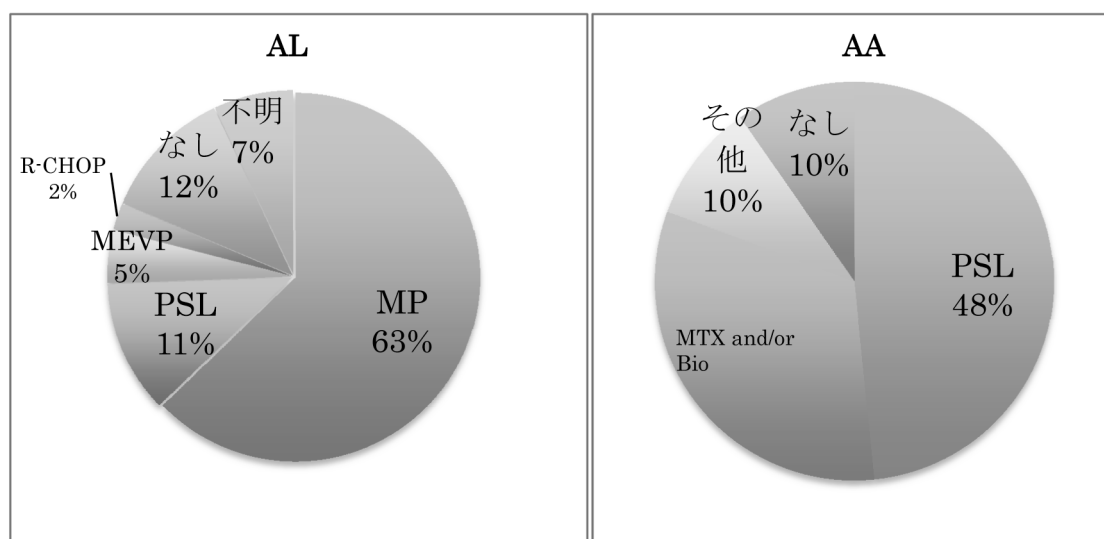
1 男女比、年齢、主な検査成績

男/女	26/48
腎生検時の平均年齢	61.8 (21-84)
平均s-Cr値 (mg/dl)	1.55 (0.4-9.2)
UP 0	4
UP 1+ 30mg/dl	10
UP 2+ 100mg/dl	18
UP 3+ 300mg/dl	33
UP 4+ 1000mg/dl	9

2 基礎疾患の内訳

AL型	43	AA型	31
単クローン性 γ グロブリン血症	32	関節リウマチ	21
多発性骨髄腫	9	クローン病	3
マクログロブリン血症	2	ベーチェット病	1
		サルコイドーシス	1
		大動脈炎症候群	1
		多発性血管炎	1
		腎結核	1
		単純性腸潰瘍	1
		Kartagener症候群	1

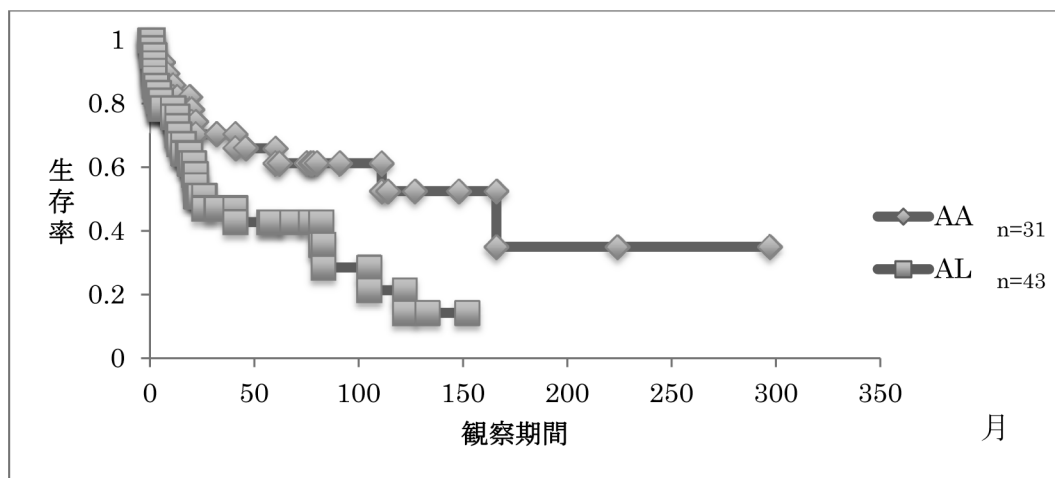
3 AL群、AA群の治療内容の内訳



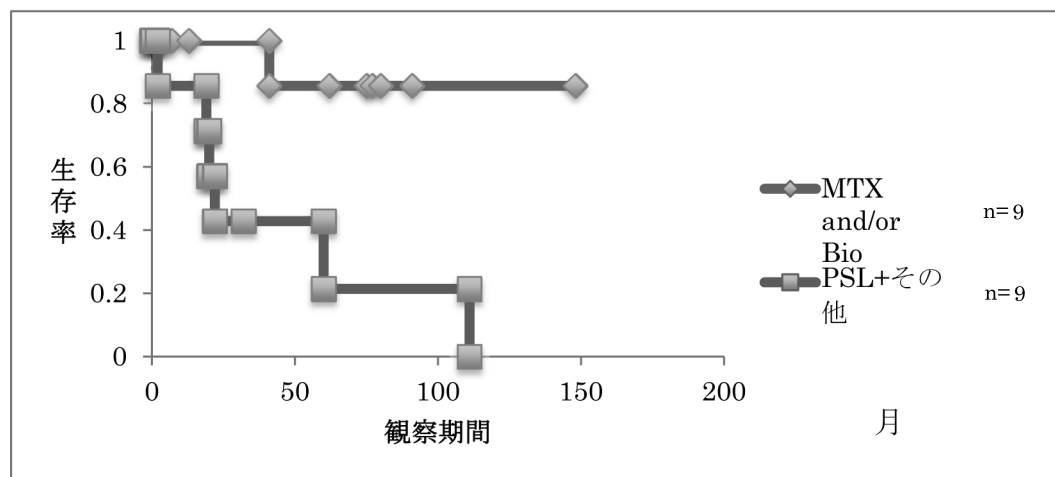
4 死因の内訳

AL型	24/43	AA型	12/31
心不全	8	心不全	3
敗血症	5	敗血症	2
骨髄異形成症候群	2	間質性肺炎	2
多発性骨髄腫	1	消化管出血	2
消化管出血	1	腎不全	1
腹膜炎	1	腹膜炎	1
不明	6	不明	1

5 AL型とAA型のKaplan-Meier生存曲線



6 RA患者での治療法の違いによる生存曲線



<考察>

Kaplan-Meier生存曲線の結果より、MTXや生物学的製剤使用による抗炎症治療の進歩によって、AA型の予後が有意に改善されたものと考えられた。

臨床への応用としては、AA型とAL型を明確に区別し、AA型への抗炎症治療を徹底することが、今後の臨床診療で重要な点と考えられた。また、AL型の治療法は今後の課題と考えられる。

参 考 文 献

1. Yutaka Ozawa, Kazuo Kawamura, Daisuke Kondo, et al. Renal function at the time of renal biopsy as a predictor of prognosis in patients with primary AL-type amyloidosis
2. Yoshie Sasatomi, Hiroshi Sato, Yashiro Chiba, et al. Prognostic Factors for Renal Amyloidosis: A Clinicopathological Study Using Cluster Analysis